

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

事業課題名	アジアにおける持続可能な経済システム構築をめぐる国際会議開催に伴う教員招聘
代表者名	小杉泰(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、アジアにおける持続可能な経済システムの構築をめぐる問題群に関する研究国際会議を開催するものである。今回の会議では、特に、近年、東南アジアで台頭しているイスラーム経済を取り上げ、その可能性と意義について検討を行う。会議の開催に当たっては、イスラーム経済研究の世界的拠点である英国ダラム大学イスラーム経済金融研究センター(Durham Centre for Islamic Economics and Finance、以下 DCIEF)と提携し、同センターが有する随一の国際研究ネットワーク(とりわけ、東南アジアのネットワーク)を活用することで、優れた研究者を複数招聘することを予定している。</p> <p>大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(以下、ASAFAS)グローバル地域研究専攻には、イスラーム世界論講座があり、近年、重点研究領域としてイスラーム経済研究を取り上げている。一方、本事業の提携先である DCIEF は、イスラーム経済・イスラーム金融を対象とした学術研究を行っている世界随一の研究機関である。本事業での国際会議の開催によって、現代におけるイスラーム経済の実践的有効性について、アジアの文脈において提起できるものと期待される(「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築(ミッション3)」への貢献)。</p> <p>また、今回の国際会議では、本学に所属する大学院生にも発表の機会を設ける。これは、海外の第一線の研究者と研究交流の機会を与えるとともに、自らの研究成果の国際発信を行うための訓練の場を提供することを目的としている(本事業における「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成(ミッション2)」への貢献)。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業による国際会議は、2015 年 8 月 4 日から 5 日まで 2 日間にわたって Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics の下に開催された。会議には、本事業経費によって招へいた 2 名の教員(Banjaran Indrastomo イスラーム法と経済協会(Masyarakat Ekonomi Syariah) 研究出版課長、Amirul Haqem Bin Abd Ghani マレーシア北部大学講師)に加えて、7 名の研究者がイギリス、マレーシア、インドネシアから来日し、研究報告を行った。また、京都大学からは、12 名の教員、大学院生が、国内他大学から 1 名の教員が研究報告を行った。</p> <p>会議では、西洋起源の近代資本主義とは異なる独自性を持つイスラーム経済が、21 世紀の持続可能な地球社会の将来ビジョンにどのように貢献しうるかについて、アジアの経済発展の方向性に関する議論を絡めながら各セッションで活発な議論が交わされた。特に、イスラーム経済が掲げる理念の実効性が粗上に上り、イスラーム型モラルエコノミー論にもとづいた近代資本主義型発展径路の弊害の克服可能性や、禁止すべきものを避けることでイスラーム型経済発展径路を模索する従来の消極的な立場を転換し、より積極的にイスラームの掲げる経済理念を実践していく「ハラール人生哲学」の可能性が議論された。本会議の参加者の多くは、イスラーム経済が専門であったが、アジアにおける持続可能な経済システム構築をより広い学問領域から提唱していくためには、イスラーム経済研究とアジア学のより密接な交流が必要であるという意見も提起された。</p> <p>本事業の教育効果として、会議に参加した本学の大学院生が招へいた教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこのような機会を継続的に提供していくことの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会議でもあった。</p>